

カナダの中学・高校教育制度のしくみ

イギリスの教育方針を根底に伝統的な教育哲学を持つカナダ。自然にも大変恵まれています。カナダの中学・高校は、日本と同じように公立と私立に分かれています。カナダには、公立と私立を合わせて約5,500校の中学・高校があり、95%の生徒が公立に通っています。

ESLについて

多民族国家で移民の多いカナダの高校では、公立高校でも私立高校でも多くの学校で英語集中コースESL(English as a Second Language)のクラスを設けています。ESLのクラスでは、留学生だけでなく、移民してきたばかりの家庭の子どもも学んでいます。ほとんどの留学生は、始めはESLコースに入学し、9月又は1月から普通の授業を受けるか、ESLと並行して科目履修をするというのが一般的です。

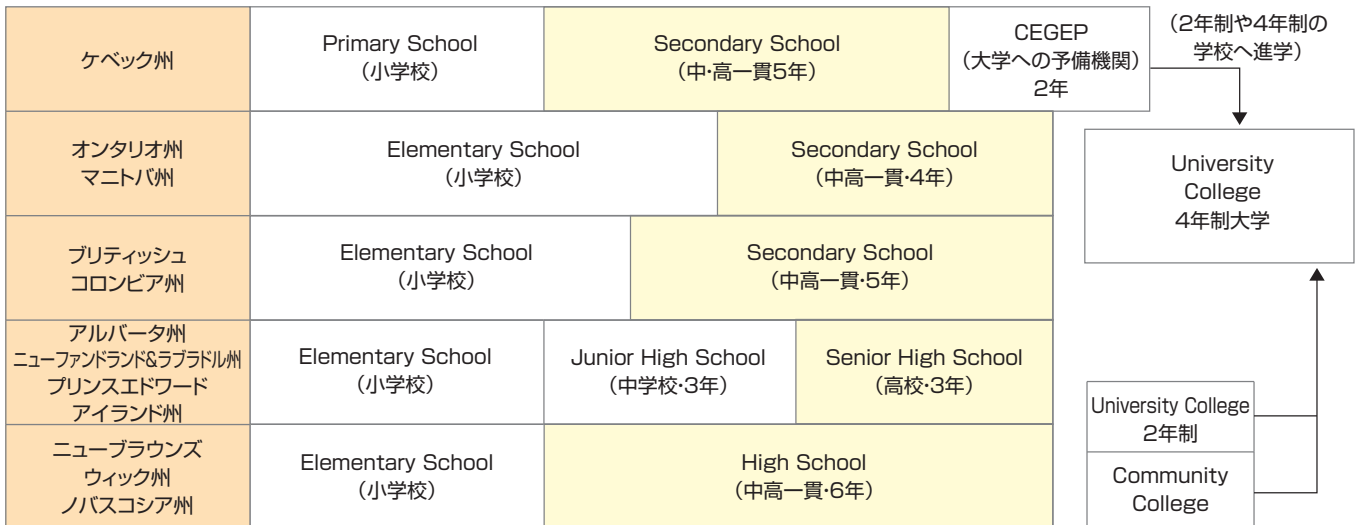
カナダの学期

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
Semester制	Fall Semester (秋学期)				Winter Vacation (冬休み)	Spring Semester (春学期)					Summer Vacation (夏休み)		

カナダの教育制度

(カナダの教育制度は州ごと、または公立・私立によって違います。場合によっては、その学校独自の制度をとっているところもあります。)

カナダ	Grade	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	G10	G11	G12
	年齢	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
日本	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3



中等教育

日本でいう高校は中等教育(Secondary School、Junior High School、High School)に分類されます。州によってかなりの違いがあります。4年制、5年制、3・3年制等があり、特にケベック州はセジェップ(CEGEP)という大学進学の前準備機関があり、他の州より1年早く中等教育を終了し、2年間のセジェップへ進学します。高校はGrade8~12で、義務教育はGrade10までの州がほとんどです。

公立高校

ほとんどのカナダ人の高校生が通っているのが公立高校です。州を学区に分け、人口密度によって設置されています。留学生を入れている学校や管轄の教育委員会には、コーディネーターがおり、様々な面で留学生をサポートしています。ホームステイ先もコーディネーターが直接選定しているため、質の高いステイ先を見つけることができます。授業料は、カナダ人は無料ですが、留学生は有料になります。

私立高校

私立高校は、学校独自の伝統的な授業と個性をもつのが特長です。共学校のほかに寮制の学校、男子校、女子校、遠隔地からの生徒や留学生にホームステイ先を用意している学校などいろいろなタイプがあります。私立の入学条件は、学校によっても様々ですが、過去2年間の成績証明書と推薦状は、ほとんどの学校が要求します。なかには、エッセイや健康診断書、TOEFL®のスコアが求められることもあります。

ニュージーランドの中学・高校教育制度のしくみ

ニュージーランドは高い教育の質を維持するために、さまざまな団体によって学校の品質や認定がおこなわれています。教育者によって「外国人留学生の生活保障に関するサービス規定」が設けられ、留学生へのサポートシステムが確立されています。また各国からの留学生を受け入れており、アジア人に対する関心が高いことも特徴です。フレキシブルな入学態勢、また4学期制であることから、日本の教育システムからの留学がしやすい国の1つでしょう。

ESLについて

移民国家でもあり、留学生を積極的に受入れているニュージーランドでは、ESL(English as a Second Language)と呼ばれる英語を母国語としない生徒のための英語補習クラスが充実しています。ほとんどの学校がESLクラスを持ち、特に授業に使用される専門的な用語や言い回しの学習と、レポートや発言を主とする授業のスタイルに慣れることがESLクラスの目的です。週あたりのESLの授業時間、レベル数などは各校によって異なります。また学校によっては、留学生のための経済学クラス(ESL Economics)などのように、留学生に分かりやすいように配慮された他教科をもっている学校もあります。

NCEA全国統一試験

ニュージーランドでは、Year11~Year13の生徒を対象に、学年の修了を証明する全国共通資格試験であるNCEA(National Certificate of Educational Achievement)が設定されています。査定は校内評価と学年末試験の結果の組み合わせによって判断されます。

NCEAのそれぞれのレベル(レベル1~3)に合格すると、上級課程への進路の選択ができます。

ニュージーランドの学期

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
クォーター制	Vacation	Term 1 (1学期)		Vacation (約2週間)	Term 2 (2学期)	Vacation (約2週間)		Term 3 (3学期)	Vacation (約2週間)	Term 4 (4学期)		Vacation

ニュージーランドの教育制度

ニュージーランド	Year	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10	Y11	Y12	Y13
	年齢	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
日本	学年		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3

小・中・高一貫				NCEA Level 1	NCEA Level 2	NCEA Level 3	University (大学)
Primary School (小学校)	Year 7-13 School (中・高一貫)		Foundation Studies (大学入学準備コース)				
	Full Primary School (小・中一貫)		Intermediate School (中学校)	Secondary School (高校)	Polytechnic (職業技術専門学校)		

中等教育

日本でいう高校は中等教育(Secondary School)に分類され、Year 9からYear13(通常13才~17才)までで、中学・高校の区別はありません。ニュージーランドではYear11~Year13の生徒は各学年の"修了"を証明するNCEA(全国共通資格試験)を受けなくてはなりません。義務教育はYear11までとなっています。Year11になるとNCEAレベル1という義務教育卒業試験を受験します。この試験の結果は義務教育修了の資格として認められ、その後の進学の際に学歴として提出する必要があります。試験後はYear11で終了するかYear12,13へ進級するかを選ぶことができます。NCEAレベル3を取得すると、大学への進学が認められます。

公立高校と私立高校

ニュージーランドの高校のほとんどは、政府が設立した公立校です。男女共学校が大半で、男子校または女子校は約10%です。広範囲にわたるプログラムを導入し、自由でのびのびとした教育環境が整っています。1990年に公立高校への留学生受入れが制度化されて以来、多くの学校が積極的に留学生を受入れています。

私立高校は少数で、一般に教会や民間の団体が管理・運営しています。国の教育システムから独立した学校として設立されているので、NCEAに関する科目以外は生徒のニーズに応じた独自のプログラムを用意しています。

留学生を受入れる学校は政府の登録を受けなければならないが、受入れ校の多くは留学生のためのコースや専任のスタッフなどを配置しています。また、留学生の数や国籍に偏りがでないよう配慮されています。

オーストラリアの中学・高校教育制度のしくみ

多民族・多文化国家のオーストラリアは、ユニークかつ理想的なコスモポリタン社会を形成しており、多様な価値観、グローバルな視点で考え、行動できる国際人を創り出すのに適した環境が望めます。

公立(州立)高校と私立高校の違いは？

(州立)公立高校		私立高校	
70%	オーストラリアの全高校に占める割合	30%	
州の教育省	管理・運営	カトリックやアングリカンなどの宗教団体または民間(宗教色はないところが多い)	
1986年の制度化により留学生に正規留学を認める州が増えてきている。	受入れ	ほとんどの正規留学生は私立の留学が中心。	
必要	授業料	必要	
ホームステイ	滞在	寮・ホームステイ	
学校により違うが、5段階評価で3以上、在学校の先生の推薦状等、私立より厳しい場合が多い。	入学基準	学校によって違うが公立より入りやすい。	

州立(公立)と私立があり、州立校が約7割を占めます。州立校はほとんどが共学ですが、私立校の約3分の1は男女別学です。州立校は基本的に無宗教ですが、私立校の多くはキリスト教などの宗教系です。ほとんどの学校が、生徒の個性を伸ばす特色のある教育を推進しており、近年、音楽・芸術・数学・科学、スポーツなどの特別専攻コースを併設する学校も増えています。また、高校卒業後に海外で進学を考える学生を対象にした「国際バカロレア」コースを実施する学校もあります。

※国際バカロレア(IB)International Baccalaureate
世界の120を超える国々で認められている国際的な大学進学資格。日本でも260以上の大学が認定。

オーストラリアの学期

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
Vacation	Term 1 (1学期)		Vacation	Term 2 (2学期)		Vacation	Term 3 (3学期)		Vacation	Term 4 (4学期)	

オーストラリアの教育制度

オーストラリア	Year	Y1	Y2	Y3	Y4	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10	Y11	Y12
年齢	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
日本	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3

Preparatory Year 準備学級	1-7学年 (SA, NT, WA)			Junior Secondary School 中学校・高校1年			8-10学年			Senior Secondary School 高校2・3年			11-12学年	
	Primary School 小学校 (ACT, NSW, VIC, TAS, QLD)			1-6学年			7-9学年			10-12学年				

※オーストラリアの学校は、4学期制(タスマニアのみ3学期制)で週休2日制です。1月末(または2月初め)から1学期が始まり、12月中旬頃に4学期が終了します。12月中旬から1月末までは、夏期休暇となります。

小学校：準備学級+1〜6年、中・高校：7〜12年の州
首都特別地域(ACT)、ニューサウスウェールズ州(NSW)、
ビクトリア州(VIC)、タスマニア州(TAS)、クィーンズランド州(QLD)

小学校：準備学級+1〜7年、中・高校：8〜12年の州
南オーストラリア州(SA)、ノーザンテリトリー(NT)

準備学級、小学校：1〜7年、中・高校：8〜12年の州
西オーストラリア州(WA)

University
(大学・大学院)

Vocational Education and Training(VET),
Technical and Further Education(TAFE)
(専門学校)

オーストラリアの初等・中等教育(小学校から高校)は12年制ですが、州によって異なるシステムを持っています。(上記参照)
義務教育機関は6才から15才(タスマニアのみ16才)まで定められており、一般的には10年制で義務教育を終了します。10年生を終えた時点で進学できる専門学校のコースもありますが、一般的に大学や専門学校への進学希望者は11・12年生に進み、将来進む道を考慮して専門分野に沿った選択科目を履修します。
大学入学にあたっては日本のような受験制度はありませんが、12年生終了前に各州の「統一高等学校資格試験」を受けた上で、その点数及び学業成績に応じて入学できる大学およびコースが決まります。

アメリカの中学・高校教育制度のしくみ

アメリカの中学・高校の留学は私立校が中心。私立校は男子校や女子校、全寮制の学校、宗教系の学校などさまざま、仕事体験や地域活動などの機会が多い学校や、芸術・スポーツ分野が強い学校など、それぞれの特色を強く打ち出しています。科目は選択制で、必修以外は幅広い分野から好きなものを取ることができます。また、授業のスタイルは、ディベートやプレゼンテーションなど、自分の意見をはっきり発言しなければならないものが多くっており、授業への参加が成績の一部となります。

留学のパターン

交換留学

私費留学

異文化相互理解	目的	自分の目的による(地域・学校・期間・時期など)
全米各地の公立高校	留学先	全米各地の私立高校(寮制)
約一年間・延長はできず帰国後復学が必要	期間	制限なし(入学から卒業まで)
・過去3年間の学校の成績評定平均値が5段階評価で3.0以上 ・年令15才~18才(高校生のみ)	資格	・学力レベルは志望校により異なる ・英語力不足はほとんどの学校の場合、ESL(英語集中コース)で補習 ・中学生から留学できる
ホームステイ	滞在	学生寮
個人的経費・その他プログラム運営費等 (授業料は無料(一部負担) ホームステイもボランティアのため無料)	費用	授業料・寮費・個人的経費・その他
J-1ビザ (交換留学、研究交流などを目的に) (渡航する人向けのビザ) 交換留学団体が申請	ビザ	F-1ビザ(学生ビザ) 受入れ学校から「I-20」という入学許可が出ないと申請できない

アメリカの高校留学には、私費留学と交換留学の2つがあります。交換留学は、公立の高校、私費留学はほぼ私立の寮制の学校が留学先となります。

ESLについて

留学生の受入れに積極的な高校では、留学生のための英語集中コースESL(English as a Second Language)のクラスを設けている学校も少なくありません。交換留学の場合は、他の授業と併行して取る場合がほとんどですが、私費留学の場合は、ESLからスタートすることも可能です。

アメリカの学期

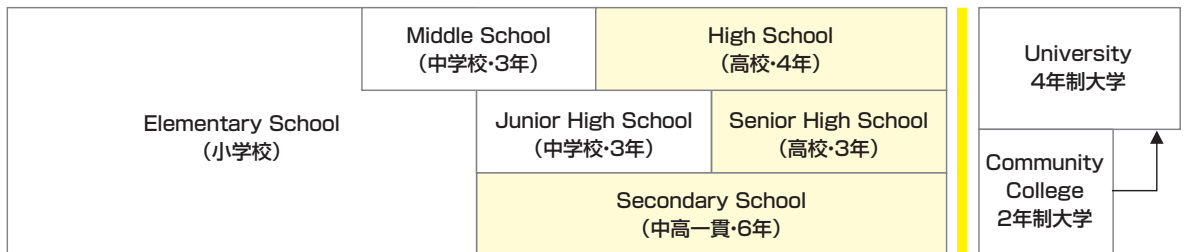
セメスター制	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
	Fall Semester (秋学期)				Winter Vacation (冬休み)	Spring Semester (春学期)				Summer Vacation (夏休み)			

*一部の学校では8月中旬~下旬にかけて秋学期がスタートします。

アメリカの教育制度

(アメリカの教育制度は州ごと、または公立・私立によって違います。場合によっては、その学校独自の制度をとっているところもあります。)

アメリカ	Grade	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	G10	G11	G12
	年齢	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
日本	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3



中等教育

日本でいう高校は、中等教育Middle school(又はJunior High school)とHigh school(又はSenior High school)に分類されます。州により差はありますが、ほとんどの場合、3-3年制又は3-4年制をとっており、高校はGrade9~12で、中等教育機関までを義務教育としている州が多いです。

公立高校

アメリカの地方都市で、アメリカの家庭に滞在し、その地域の公立の高校に通い、一般的なアメリカの高校生活を体験します。高校によっては留学生が非常に少ない場合もあります。

私立高校

各学校毎の教育方針による個性豊かな教育を受ける。また滞在はほとんどの場合寮なので世界各国からの留学生と生活を共にします。ほとんどの学校が2年制大学や4年制大学への進学コースを設けています。

イギリスの中学・高校教育制度のしくみ

イギリスの学校では子どもたちのありのままを受け入れ、ひとり一人の長所と個性を伸ばしながら自立心や自信を育てます。スポーツや音楽、地域のボランティア活動への参加なども勉強と同じくらい重要視されており、大学受験だけに焦点を合わせるのではなく、「良い人生」を送ることができるような教育方針がとられています。

人々の生活の中に感じる伝統と格式、英語教育と高校でのさまざまな科目、イギリスの学校は国際的にも高く評価されています。

日本からの留学生の場合

留学生もGCSEを取り、GCE-Aレベルに進むことが通常です。日本の中学卒業後では、ちょうどGCSE試験課程にあたるので、年齢が1つ下の学年に入ります。学校によっては留学生用のGCSEコースを開講しています。留学生用のGCSEコースでは授業の中で英語研修が取り入れられている場合があります。高校生になってからイギリス留学を考えた場合は、GCE-Aレベルからスタートすることになります。事前英語研修を行っても、イギリス人の生徒同様2年間でGCE-Aレベルを取ることが難しい場合は、3年がかりで取り組むことが可能です。

入学資格

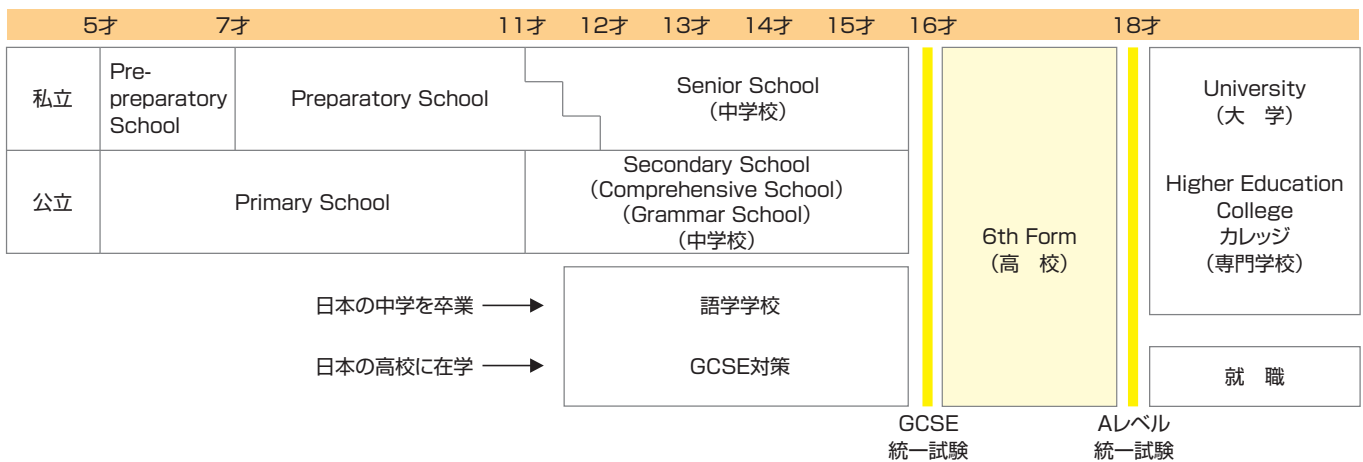
イギリスの中等教育に入学するためには、まず自分の国できちんと教育を受けている必要があります。特定の資格試験に合格している必要はありませんが、英語や数学などの科目で、学校が用意した入学試験を受ける場合もあります。また、高校のあと大学進学を目指す場合は、GCE-Aレベルの試験に合格しなければなりません。

イギリスの学期

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
学期制	Term (1学期)			Vacation	Term (2学期)			Vacation	Term (3学期)		Summer Vacation (夏休み)	

イギリスの教育制度

(イギリスの教育制度は、地域や各学校、または公立・私立によって違います。場合によっては、その学校独自の制度をとっているところもあります。)



中等教育

中等教育はSecondary School(またはSenior School)と6th Formに分類されます。義務教育はSecondary Schoolと呼ばれている16才までとなります。義務教育が終わる時点でGCSE(General Certificate of Secondary Education)と呼ばれる全国統一試験を受験、合格して中等教育修了の資格を得ます。この試験は義務ではありませんが、進学や就職の際の選考基準となるので、ほとんどの生徒が受験します。いわゆる日本の高校にあたる16~18才の間は6th Formと呼ばれ、進学に必要なGCE-Aレベル(General Certificate of Education, Advanced Level)の受験を目指します。

公立校と私立校

連合王国であるイギリスは、イングランド・ウェールズ・スコットランド・北アイルランドの4つの地域に分かれ、それぞれが独自の教育制度をとっており、日本のような統一的基準はありません。公立校と私立校では学年制度が異なることもあります。生徒は新学期が始まる前の8月31日時点での年齢に応じた学年に入ります。

イギリスの学校教育は公立校が主流ですが、保護者がイギリスで税金を納めていない限り、留学生は中等教育の段階では公立校に入学することはできません。

私立校はイギリス全土に約2,500校あります。このうち、約460校がPublic Schoolと呼ばれる名門進学校です。イギリスにおいて、Public Schoolは公立校を意味するのではなく、歴史のある伝統的な一部の私立校の総称です。イギリスの私立校の多くはBoarding Schoolと呼ばれる全寮制のシステムをとっており、約600校あります。